

これまで3年近く、この欄は、新聞で言えば社説のような論説的なものを書いてきました。しかしながら、時には、随筆のようなものもお許し願いたいと思います。

先日、名古屋に出張したときに、ちよっと時間が余ったので、駅ビルの大きな



# 大学での勉強について

## 学長 桐野 豊

本屋に立ち寄ってみました。ちなみに、私は日本人の平均よりはよく本を買う方である(必ずしも読んでいるわけではない)と思いますが、名古屋の本屋に入ると、入口付近をはじめあちこちに、竹中平蔵氏が書かれた『竹中式マトリクス勉強法』という本が平積みになっていました。大学生のときにマトリクス(行列)ではとても苦労したという記憶が蘇り、竹中氏のような経済学者は行列を駆使するようになったので、駅ビルの大きな

もしれない、と思っで中身を見ることがなく、帰り道の電車と飛行機の中で早速読んでみました。それは、勉強を4種類に分類し、2行×2列のマトリクスに並べたというものでした。恐らく分類というものを若い人たちは重要なことだと思っでおられないのではないのでしょうか? 私も、学生の頃には、植物や動物の分類には何の意味があるのだろうと疑問に思っ、とても憶える気持ちになれませんでした。そのため、薬学部に進学してから

勉強マトリクス(表)の横軸は「勉強に天井があるかないか」による分類です。「A 記憶勉強」は、資格を取るための勉強であり、資格をとれば目的達成・完了となる勉強です。一方、「B 仕事勉強」は自分の専門分野の勉強で、これは専門家としてあり続けるため

	天井がある勉強	天井がない勉強
人生を戦うための武器としての勉強	<b>A 記憶勉強</b> 例: 入学試験、資格試験	<b>B 仕事勉強</b> 例: 自分の専門分野の学問や技術
人間力鍛えるための勉強	<b>C 趣味勉強</b> 例: 趣味の資格(茶道の資格など)	<b>D 人生勉強</b> 例: 教養や人間力を高める勉強(古典や音楽)

大学での勉強は、一般に、教養科目(マトリクスのCとDに相当)→専門科目(Bに相当)→職業準備教育(Aに相当)の順に配置されていきますので、ある職業に就くための資格を取ることにゴールのように見えるかもしれませんが、大学卒業後、社会人

とされたのですが「そんなことがあるはずない」と男性でも入学できる大学を必死で探し、「徳島文理大学家政学部(現在は人間生活学部)」と出会い、徳島に住むことになった。徳島に住民票を移すことになった私は、今まで以上にセミナーに夢中になり、平日は講義の後に、休日は朝から那賀町(旧鶯歌町)に通う生活を送りました。

北京へ出発する前に徳島文理大学で執り行った。文壇の先生方は、教職員の方々、学生の皆さんの温かい気持ちを感じ、皆さんの元気をいただくとともに、私も元気になりました。

私も中学生になった1993年から「家庭科」の男子が中絶してはじめての出場種目として、日本人として初めてオリンピックに出場することができました。日本ではまだ認知度の低い「カヌースラローム」川に張られたゲートを通り、ゴールしたタイムを競う競技です。練習場所が限られる上、ボートやパドルなどの専門的な道具も必要になることで、始めるきっかけが少なく、競技人口が増えにくいのが現状です。私がカヌーに出会ったのは高校の時でした。カヌー部に入部し「水の神を動かす」という不思議な感覚に夢中になりました。高校卒業後

「人がやらないうことをやってみよう」とカヌースラロームカナディアンペアという種目で、日本人としては初めてオリンピックに出場することができました。日本ではまだ認知度の低い「カヌースラローム」川に張られたゲートを通り、ゴールしたタイムを競う競技です。練習場所が限られる上、ボートやパドルなどの専門的な道具も必要になることで、始めるきっかけが少なく、競技人口が増えにくいのが現状です。私がカヌーに出会ったのは高校の時でした。カヌー部に入部し「水の神を動かす」という不思議な感覚に夢中になりました。高校卒業後

となつても勉強は続けられて、そのような長期的視野に立つて考えると、職業準備教育は人生の最も初期段階の勉強であり、教養や専門の勉強こそが一生取り組んでいくべき勉強であることが分かります。

試合は準決勝で9位。目標であった決勝進出はできませんでした。緊張せずに試合には臨めたものの、最後でミス。正直悔いの残る試合でしたが、それが僕たちの実力だったのだと今は素直に受け止めています。今回の経験を通過して私が感じたのは「夢は必ず叶う」ということです。基本的に「ぐへたら」な性格の私ですが、オリンピック出場に向けてやってきたことの中で「これだけはやってこい」と自信をもって言えることがあります。それは「絶対オリンピックに行く」と毎日強く思い続けたということ。夢への思いが強ければ強いほど

ど、人はそれに向かって自然に努力できるのだと思います。夢を叶えるために目標を立て、その目標をクリアしたるまで次の目標へ向かって努力する。途中、苦しい思いをすることもありますが、それでも「自分がやるべきことだから」と思えば、苦しい思いをすることもありません。徳島に住民票を移すことになった私は、今まで以上にセミナーに夢中になり、平日は講義の後に、休日は朝から那賀町(旧鶯歌町)に通う生活を送りました。

「大いに変化したね」「ご苦労があったでしょう」といわれては、確かに悩んでおりましたが、仕事をしながらの練習も長距離移動もあの時の自分にとつては「大変」だった日々ではなく「充実」した日々だったのです。

今、こうしてこれまでの自分を振り返る機会をいただき、さまざまなことを思い返して

**保健福祉学部 助産学専攻科 開設**

**周産期医療を担う質の高い助産師を養成**

助産師国家試験受験資格取得指定申請中



日本全国で助産師が不足している中、徳島県においても助産師養成は喫緊の課題となっている。こうした地域医療ニーズに対応するため、本学は平成21年4月、助産学専攻科(定員10人、修業年限1年)を開設し、高度な知識・技術と豊かな人間性を備え、女性のライフスタイルを総合的にサポートする質の高い助産師を養成する。

本学では、すでに平成20年度より保健福祉学部看護学科を開設し、次代の地域医療に貢献する看護師、保健師、助産師の養成を行っている。今回はさらに、この看護学科の教育を発展させ、周産期において母子ケアを担う専門職の実践教育を展開する「助産学専攻科」を開設する。本専攻科では、リプロダク

### 入試概要

基礎看護学、母性・小児看護学、小論文および面接

○出願期間  
Ⅰ期 平成21年2月2日(月) 2月13日(金)  
Ⅱ期 平成21年2月2日(月) 2月28日(日)

○試験日  
Ⅰ期 平成21年2月19日(木)  
Ⅱ期 平成21年3月7日(日)

○合格発表日  
Ⅰ期 平成21年2月26日(木)  
Ⅱ期 平成21年3月14日(日)

も興味でカヌーを続けていました。私が中学生になった1993年から「家庭科」の男子が中絶してはじめての出場種目として、日本人として初めてオリンピックに出場することができました。日本ではまだ認知度の低い「カヌースラローム」川に張られたゲートを通り、ゴールしたタイムを競う競技です。練習場所が限られる上、ボートやパドルなどの専門的な道具も必要になることで、始めるきっかけが少なく、競技人口が増えにくいのが現状です。私がカヌーに出会ったのは高校の時でした。カヌー部に入部し「水の神を動かす」という不思議な感覚に夢中になりました。高校卒業後

北京へ出発する前に徳島文理大学で執り行った。文壇の先生方は、教職員の方々、学生の皆さんの温かい気持ちを感じ、皆さんの元気をいただくとともに、私も元気になりました。

私も中学生になった1993年から「家庭科」の男子が中絶してはじめての出場種目として、日本人として初めてオリンピックに出場することができました。日本ではまだ認知度の低い「カヌースラローム」川に張られたゲートを通り、ゴールしたタイムを競う競技です。練習場所が限られる上、ボートやパドルなどの専門的な道具も必要になることで、始めるきっかけが少なく、競技人口が増えにくいのが現状です。私がカヌーに出会ったのは高校の時でした。カヌー部に入部し「水の神を動かす」という不思議な感覚に夢中になりました。高校卒業後

となつても勉強は続けられて、そのような長期的視野に立つて考えると、職業準備教育は人生の最も初期段階の勉強であり、教養や専門の勉強こそが一生取り組んでいくべき勉強であることが分かります。

試合は準決勝で9位。目標であった決勝進出はできませんでした。緊張せずに試合には臨めたものの、最後でミス。正直悔いの残る試合でしたが、それが僕たちの実力だったのだと今は素直に受け止めています。今回の経験を通過して私が感じたのは「夢は必ず叶う」ということです。基本的に「ぐへたら」な性格の私ですが、オリンピック出場に向けてやってきたことの中で「これだけはやってこい」と自信をもって言えることがあります。それは「絶対オリンピックに行く」と毎日強く思い続けたということ。夢への思いが強ければ強いほど

ど、人はそれに向かって自然に努力できるのだと思います。夢を叶えるために目標を立て、その目標をクリアしたるまで次の目標へ向かって努力する。途中、苦しい思いをすることもありますが、それでも「自分がやるべきことだから」と思えば、苦しい思いをすることもありません。徳島に住民票を移すことになった私は、今まで以上にセミナーに夢中になり、平日は講義の後に、休日は朝から那賀町(旧鶯歌町)に通う生活を送りました。

# 徳島文理大学通信

徳島文理大学 アドミッションズ・オフィス  
徳島市山城町 770-8514  
☎0120-602-455

ティープヘルズを基盤にして、周産期看護を担える専門職の実践教育を行う。この教育により不妊から妊娠、出産、さらに新生児の育児に至る女性のライフサイクルの総合的な助産ケアの能力を培ったスペシャリストを養成する。そのため、本学独自の助産師養成教育課程の専門プログラムを策定し、新たに助産教育を体系化する。

このことで看護師の再教育による助産師の確保と質の高い助産ケアの享受を求める社会の要望に応えることができるとともに、国民の保健福祉の向上にも貢献することができるといえる。

「人がやらないうことをやってみよう」とカヌースラロームカナディアンペアという種目で、日本人としては初めてオリンピックに出場することができました。日本ではまだ認知度の低い「カヌースラローム」川に張られたゲートを通り、ゴールしたタイムを競う競技です。練習場所が限られる上、ボートやパドルなどの専門的な道具も必要になることで、始めるきっかけが少なく、競技人口が増えにくいのが現状です。私がカヌーに出会ったのは高校の時でした。カヌー部に入部し「水の神を動かす」という不思議な感覚に夢中になりました。高校卒業後



長尾寛征さん(左から2番目)とカヌー出場メンバー

北京へ出発する前に徳島文理大学で執り行った。文壇の先生方は、教職員の方々、学生の皆さんの温かい気持ちを感じ、皆さんの元気をいただくとともに、私も元気になりました。

私も中学生になった1993年から「家庭科」の男子が中絶してはじめての出場種目として、日本人として初めてオリンピックに出場することができました。日本ではまだ認知度の低い「カヌースラローム」川に張られたゲートを通り、ゴールしたタイムを競う競技です。練習場所が限られる上、ボートやパドルなどの専門的な道具も必要になることで、始めるきっかけが少なく、競技人口が増えにくいのが現状です。私がカヌーに出会ったのは高校の時でした。カヌー部に入部し「水の神を動かす」という不思議な感覚に夢中になりました。高校卒業後

となつても勉強は続けられて、そのような長期的視野に立つて考えると、職業準備教育は人生の最も初期段階の勉強であり、教養や専門の勉強こそが一生取り組んでいくべき勉強であることが分かります。

### 『人間 村崎凡人』を発売

村崎凡人前理事長は世界大戦で、フィリピンに出征、激戦の戦場から奇跡的な生還を遂げました。

凡人先生は祖母の遺業をうけつぎ、幼・小・中・高・短大・大学・大学院を

村崎凡人先生

構築した教育者で、その凡人先生の生涯のご業績を綴ったのが、『人間 村崎凡人』です。

また先生は、歌人でもありました。「根の木」の同人として活躍する一方、空穂の要望により「評傳窪田」を執筆しましたが、さらさらとその統編の要請を空穂から受けました。

しかし執筆半ばで世界しく、改訂版となりました。

図書館にある凡人先生の肖像は、日本を代表する作者佐藤忠良氏の作品で、入館する人を温かく迎えてくれるように、眼差しの温顔である。

最近の日本の産業社会の閉塞状況を指す言葉として「ガラパゴス化現象」というのがあ

このような特殊性は、生物の世界ではガラパゴス諸島における現象にたとえられる。大陸から隔絶された環境で、独自の進化を遂げた固有種が数多く存在するが、これらは外から入ってくる外来種の攻撃にはきわめて弱い。今の日本は、まさにこの「ガラパゴス化現象」が生じているとい

しかし、日本はすでに人口減少時代に入っており、国内市場の収縮が避けられない。また、今回の世界金融危機でもわかったように、世界は急速に統合化、フラット化している。日本の誰もが、どの地域もが、アジアなどの新興諸国を初めてする世界との競争と交流を抜きにしては生きていけない時代に入っている。

▼今年の大学公開講座で「フラット化する世界に大きく飛躍するために地域は、企業は、そしてあなたは何をすべきか」との題で講演された、石倉洋子先生(「橋本大学大学院教授」)は、「最初から世界を指さす」も「誰にも、どの地域にも必ず「売り」がある」と熱く語りかけられた。

▼ガラパゴス諸島の総面積は四国の約半分とのことである。今は住みやすいふるさと四国であるが、グローバル化の激波の中で絶滅種とならないよう、私たちの思考と行動を世界に開いていかなければならない。

これを指摘した本(『二〇一五年の日本』)によると、日本は一人超の国内市場をうまく活用して産業発展を遂げた一方、日本独自の商慣行や消費行動が、海外諸国とは異なる市場(携帯電話など)を生み出し、さらには国の制度などまでが世界標準とかけ離れた特殊な国になってしまった。

最近の日本の産業社会の閉塞状況を指す言葉として「ガラパゴス化現象」というのがあ

# 村崎理事長による 姉妹校訪問で 絆深まる

共同研究・留学制度  
などに成果

## マサチューセッツ工科大学（MIT） ニュートン副学長と対談

9月22日(月)・23日(火)、村崎理事長がポストンのマサチューセッツ工科大学を訪問し、ジェフリー・ニュートン副学長、クリス教授および増淵名誉教授と会談した。今回はデーン・ミッド理事長が急遽出張されたため、ニュートン副学長と、長年の交流関係を一層強固にする目的で多岐にわたる議題を協議した。

はじめに村崎理事長から交換プログラムが順調に推移していることへの謝辞を述べた。最近の事例として香川薬学部とビコワー研究所(生物・神経科学)の利根川進先生との脳回路機能の共同研究において、富永貴志准教授が活躍されたことが話題になった。今後の

海底ロボット (SEA PERCH) を共同開発

世界的な海洋工学の権威者である、マサチューセッツ工科大学のクリス教授から未来の研究者を育てる目的で、海底ロボットの共同開発の提案があり、具体的な計画について協議した。このロボットは、組み立てから実際に海底作業をするまでを一貫して学ぶことにより、科学、電子・機械工学、海洋学に至るまで幅広い分野の研修を行うことを目的とするもので、リモコ



ジェフリー・ニュートン副学長(左)と村崎理事長



海底ロボット

ン操作によりプランクTONの収集や海底の様子を撮影し、実際の実験を行うことができる。今までに全米17州の教育者3000人をおこのプログラムで指導し、最近フランスの教育関係者からの要請でパリの中・高校で海底ロボットの指導を行っている。本学では、このロボットを導入して実習にいかせるよう検討している。

対談の後、クリス教授の研究室に案内され、現在研究中の各種プロジェクトの説明があった。本来、海軍から依頼を受けて行われている各種舟艇の実験調査は部外者の立ち入りが禁じられているが、友好関係を密にしている本学は、実験室に入ることができた。

## MIT Athletic Club

ポストンの長く厳しい冬を乗り切るには室内で運動器具を利用した定期的な運動は健康維持に欠かせない。日本のジムも多くは閉鎖された室内に運動器具を設置しているが、MITでは外の風景を楽しみながら運動ができるように設計されている。MITで視察したトレーニング施設を参考に本学でも各種スポーツトレーニング器具を準備し、学生、教職員の健康維持に役立つよう12月から新トレーニング器具を設置する。(関連記事8面)

## シエナドー大学新学長就任式に 日本の姉妹校を代表して招待される



トレイシー・フィッツシモンズ学長(右)と村崎理事長

## MIT Athletic Club

133年の歴史を持つシエナドー大学(アメリカ)と本学は音楽療法を中心とした活発な交流が行われていた。今回第16代学長に就任されたトレイシー・フィッツシモンズ博士の就任式に、村崎理事長が招待された。約3000人の招待者の中でもシエナドー大学名誉博士として最前列に席が用意され、フィッツシモンズ新学長をはじめ経営陣および職員から歓迎された。アメリカの現代文学界を代表する大物のマヤ・アンジェロウ氏の講演で始まった就任式は、さらびやかな中にも尊敬が漂う、感動に満ちた就任式であった。マヤ・アンジェロウ氏は黒人女性で幼い時から差別と貧困の連続の中から立ち上がった自己体験をまじえ、教育の大切さを切々と訴えた。

就任式に先立ち村崎理事長はデニス前学長と対談し、学術交流の成果、現在進んでいるプログラムなどについて話し合った。また長年の功労に対し労いの言葉を述べた。26年間にわたる学長を勤められたデニス先生は、本学との国際交流に多大な貢献をされているため、今年5月26日(月)に

## グリフィス大学オコーナー学長と会談 —ゴールド・コーストで英語研修—

10月13日(月)・14日(火)、村崎理事長、藤木副学長、安藝事務局長、山下国際交流グループ長が、グリフィス大学(オーストラリア)のアイサン・キャンパスとゴールド・コースト・キャンパスを訪問し、今年2月に締結された学術協定の確認や英語研修について詳細な打ち合わせが行われた。村崎理事長からの提案で交換留学生一人ずつの相互受け入れを提案し快諾された。また今回の訪問で村崎理事長とオコーナー学長との専門分野が共通していることがわかり、密度の濃い会談となり、温かい歓迎をうけた。山下グループ長と語学研究所のマーガレット・ケリー・シール部長の間で詰められた英語研修プログラムは、ホームステイをしながらグリフィス大学ゴールド・コースト・キャンパスで研修を受けるもので、期間は09年2月25日(水)から3月15日(日)の2週間となった。この度の学術協定は、藤木副学長がアイサン・キャンパスのエスキテイス研究所ロン・クイン所長と研究仲間であり、91年以降の旧交を暖めていたことが種子となっている。

ネイサン・キャンパスでは、クイン所長から研究所内部の詳細な説明があり、何台ものロボットが稼働している研究室を見せてくださった。さらに来年の2月に移転予定の新研究所を見学する機会にも恵まれ、企業と共同研究が対等にできる同研究所の逞しさに感銘を覚えた。

今回の訪米は、早朝から夜遅くまで会議とイベントなどでハードスケジュールの連続だったが、シエナドー大学と姉妹校提携をしている、チリ、ルーマニアから出席した大学学長との交流を図るなど実り多いものであった。

「米国での溶接に関する研究及び教育生活から一織物卸商の息子がMIT名誉教授になった」を演題とする講演会が、去る10月22日(水)に香川キャンパス工学部に於て行われた。多くの学生や教職員が参加し、先生の人生訓を交えたお話に大きな感銘を受けた。また、桐野学長も聴講された。

マサチューセッツ工科大学と言え世界的な工科系の大学であり、日本では東京大、京大に位置する大学であり、ノーベル賞の利根川進先生が在職される大学としても有名である。

今回の講演は、増淵先生が今日まで送られた研究生の出来事や、人との出会いを綴り交ぜながら、ご自身の人生感・人生訓を話された。その内容は、世界的にご活躍されている方の講演だけあって、非常に迫力の

あるものであり、それだけに学生たちに向けても「何かしら」が伝わったことは容易に推察することができると。それは、質疑応答の際に学生から「やはり、先生の成功の秘訣は何か?」という質問が出たことや、聴講生の多くから「今日の講演は非常に面白かった。今後このような講演会の機会をぜひ設けてほしい」という感想が多くあったことが証明している。

先生の講演の締めくくりは、次の2点であった。

①英国人、中国人などを含め、他の民族に比べて母国語以外で活躍している日本人は極めて少ない。

②特に、大学教授、医師、弁護士などの知識的職業関係者が非常に少ない。皆さん、ザルツブルク旅行代金・37万5000円(25人以上)

## 姉妹校 マサチューセッツ工科大学名誉教授 増淵興一氏の特別講演

多大の感銘を受ける!!

最大の宗教行事であるクリスマスと体験できることはかけがえのない一生の思い出として、生涯記憶に残るはず。また、この時期は音楽活動や芸術活動が最も活発になる時期で、生まれ変わった自分を再発見してみては? また、姉妹校のバウリア大学との交流も計画されている。

期間…2008年12月16日(火)から29日(月)(14日間)  
訪問地…ミラノ、ベネチア、フィレンツェ、ローマ、パ

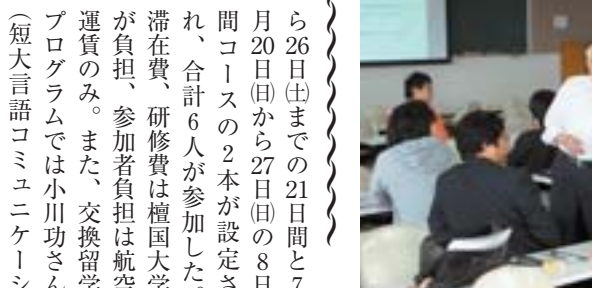
今年協定を結んだばかりの第13番目の姉妹校、グリフィス大学ゴールド・コースト・キャンパスで2週間の語学研修に参加しよう!! ホームステイをしながら治安や気候が良く、そしてリゾート地としても人気のゴールド・コーストでの語学研修は最高の贅沢!

期間…2009年2月25日(水)から3月15日(日)(19日間)  
研修地…オーストラリア、ゴールド・コースト  
旅行代金…33万5000円

◎檀国大学  
夏期韓国語研修

韓国の姉妹校の檀国大学とは活発な交流が行われている。今年は7月6日(日)か

ら26日(土)までの21日間と7月20日(日)から27日(日)の8日間コースの2本が設定され、合計6人が参加した。滞在費、研修費は檀国大学が負担、参加者負担は航空運賃のみ。また、交換留学プログラムでは小川功さん(短大言語コミュニケーション学科2年)が半年間の予定で9月から檀国大学に留学している。檀国大学からは4人の学生が9月から1年の予定で香川キャンパス文学部に留学中。



この方面での外国での活躍を期待している。

標記講演は、若い人たちに向けて、人との出会いや、人のネットワークを大切にしたいことの重要性を説いたものであり、大変価値あるものであった。教育現場でHR(ホームルーム)という表現がしばしば使われるが、これに加えてHRにHuman Relationという言葉も充てることも、今回の講演成果を今後いかしていくための一法かと感じた。

招待講演

エールリッヒ博士のノーベル賞受賞  
100周年記念学会にて

名誉学長 勝沼信彦

Paul Ehrlichが梅毒菌ス  
ピロヘータの特効薬サルバ  
ルサンを秦佐八郎先生と協  
同で開発し、化学療法のだ  
を開き、ノーベル賞を受賞  
して今年で100周年にな  
ります。100年祭の学術講  
演会が10月3日(金)から5日  
(日)に渡り、ドイツのニュ  
ンベルクで開催されました  
。世界中から約2000  
人が参加した盛大な会です  
。私は本学の津下教授お  
よびVito Turk本学客員教  
授と共同研究している  
"Structure based new  
drug design and their  
medical applications" (酵  
素蛋白の立体構造による新  
薬の開発法とその医学的応  
用)という内容で、招待講  
演を致します。

秦佐八郎博士は、岡山大  
学薬学部卒業後ドイツに留  
学され、エールリッヒ博士  
の下でサルバルサン(60  
6号)を創製されました  
。100年前でなく、現在で  
あれば当然ノーベル賞を共  
に受賞されていた筈  
です。会場に掲げて  
あった2人の絵(会  
場にて複製)を紹介  
します。当時は、北  
里柴三郎博士ですら  
ルイ・パストール博  
士と共にノーベル  
賞をもらえなかつた  
時代でした。この会  
期中に、日本の4人  
の学者がノーベル賞  
(化学賞と物理学賞)  
受賞のニュースが入  
り、感無量でした。

秦先生は帰  
国後、北里  
大学の教授  
になられま  
した。  
秦先生を  
始め、今回  
の4人の学  
者は、自分  
の興味と意  
志を持ち、



留学生と盛んに交流  
日本語・日本文化を紹介

香川キャンパス

香港城市大学の学生19人  
が、7月21日(月)から8月3  
日(日)の日程で香川キャン  
パスに来学した。

今回は、イタリアのパ  
リア大学からの学生が2人  
加わっていたため、例年と  
は少し雰囲気異なり国際  
的になっていった。午前中  
に日本語の研修、午後は各  
種の学外活動をして、大い  
に日本の伝統的な文化を楽  
しまってもらった。香川の伝  
統的なお菓子(和盆)作り  
の体験、きもの着付け体  
験、花火体験、NHK訪問、

阿波踊り見学など、内容が  
盛りだくさんで、体力の面  
が心配だったが、さすがに  
若い学生だけあって、好奇  
心旺盛で質問も多く、全く  
疲れなど感じさせない行動  
力を見せてくれた。  
午前中の日本語研修に関  
しては、最初は多少難しく  
感じていたようであったが  
、徐々に慣れてくると後  
半の授業は大変充実したも  
のとなり、  
快調に進ん  
だ。成果は、  
最後の挨拶  
において実  
にはたっぷり  
と表れた。  
来学したと  
きの挨拶と  
は異なり、  
スムーズに  
日本語が出  
てくるので  
ある。この  
成果は、日  
本語の研修  
の結果だけ  
でなく、本  
学のボラン  
ティア学生  
との盛んな  
交流の結果でもある。ボラ  
ンティアの学生は、積極的  
に留学生と交流を持ち、一  
緒にショッピングに出かけ  
たり、お寺を案内したりと  
大活躍してくれた。留學生  
のみならず、本学の学生  
にとっても、大変意義のあ  
る2週間であったようだ。  
このような交流が末永く続  
くよう努力を続けていきたく  
い。



地域協同開発センター  
第4回技術交流会

地域共同開発センター主  
催の第4回技術交流会を10  
月18日(土)に開催した。  
技術交流会は工学部を中  
心としたシブズと「さぬき  
市」「東かがわ市」を中心  
とした産業とを結び会とし  
て開催してきた。今年度は、

消費者が強くニーズを主張  
する場としての役割、将来  
産業を担うべく大学生、大  
学院生、そして地域の小学  
生、中学生の育成する場  
として開催した。  
本学、および協賛企業か  
ら15題の商品展示・技術紹  
介パネル展示では、展示の  
みならず消費者と生産者、  
そして生産にかかわるべく  
若者の熱い議論で盛り上が  
った。また、特別講演会  
は、既存の概念にとらわれ  
ない「自由で面白い」発想  
からビジネスチャンスを広  
げてくれた富士タンポ  
ル株式会社本田社長のお話  
や日本一の桐下駄生産の現  
場を支える山西社長の講演  
など4題を賜り大変活気あ  
る議論が交わされた。

今回は、学生ボランティア  
10人を含め学生、大学生  
の参加が多く見られた。第  
5回以降は一層積極的な参  
加を期待している。

教員の質的向上をめざして

中国・四国地区私立大学教職課程  
研究連絡協議会の会長校兼事務局に

私立大学には全国規模  
で、「教員免許状更新」「教  
職実習演習」や「学習指導  
要領」等のあり方を検討し  
ていく教職に関する研究協  
議会、全国私立大学教職課  
程研究連絡協議会(全私教  
協)がある。  
この下部組織の一つに、  
中国・四国地区私立大学教  
職課程研究連絡協議会(中  
四教協)があり、この組織  
には34の大学が加盟してい  
る。そしてこの度、平成20  
年度から21年度にかけて本  
学がこの中四教協の会長校  
兼事務局となった。  
役員は次の通りである。

- ①中四教協定期総会・研究  
協議会(4月)
- ②中四教協秋季研究協議会  
(12月)
- 会長・桐野豊学長
- 事務局長・三橋謙一郎人  
間生活学部児童学科長
- 事務局・中原祐一教育支援  
グループ長、高松圭子教  
育支援グループ事務主任
- ③中四教協地区運営委員会  
(4月・9月・12月・2  
月・3月)

さらに、中四教協・会長  
校兼事務局として、年2回  
の全私教協の研究協議会と  
年6回の全国理事会(事務  
局長が中四国地区代表理事  
を兼任)にも出席する。  
今日、教育をめぐる問題  
は多くの社会的議論を呼ん  
でいる。中四教協の立場か  
ら、教育職従事者の質的向  
上をめざして最善の努力を  
積み重ねていきたいと考え  
ている。ご指導、ご鞭撻のほ  
どよろしくお願いたします。

世界的指揮者登壇 小泉和裕氏  
「歓喜の歌」聴衆を魅了



徳島文理大学第51回定期  
演奏会が、11月29日(土)香川  
キャンパス村崎サイメモリ  
アルホール、同30日(日)徳島  
キャンパスむらさきホール  
で行われた。  
ゲスト指揮はカラヤンコ  
ンクールの優勝し、世界で  
活躍している小泉和裕氏。  
小泉氏は5度にわたり登壇  
しており、適度なスタンス  
で本学管弦楽団の成長に指  
針を与えてくれている。  
今年度は小泉氏を音楽監督  
としてお迎えすることがで  
き、音楽学部創設40周年と  
いう記念すべき定期演奏会  
がさらに栄えあるものとな  
った。演奏曲のペートルツ  
ェン作曲、交響曲第九番  
「合唱付き」は、徳島県が  
日本初演の地とされている  
曲であり、とりわけ思い入  
れのある曲である。  
合唱団には、他学部の教  
職員、卒業生も参加し、ま  
さに全学あげての熱の入っ  
た取り組みとなった。

定期演奏会を  
終えて

音楽学科3年 本多佳菜

今年の定期演奏会は、ペ  
ートルツェン作曲「交響曲  
第九番 歓喜の歌」だと知  
らされた時、私の胸は高鳴  
りました。1年生の夏から  
四国キャラバンコンサート  
に参加するようになり、第  
九が日本で初めて演奏され  
た地が徳島であることを知  
り、私も徳島で演奏したい  
と思っていたからです。  
インスパイアとして推  
薦を受けた私は、今年の春  
からオーケストラを運営す  
ることになりました。初め  
は、「私で大丈夫だろうか」  
と不安でいっぱいでした  
が、先生方をはじめ先輩方  
や友人、そばにいてくれた  
役員のみんなに励まされ、  
何度も助けていただきう  
ち、「みんなを引っ張って  
いかなきゃ!」というこ  
としか頭になく焦っていた  
が、当五重奏団は、各楽器  
の国際的スターによって  
編成される全く新しいハ  
イクラスな合奏団であ  
る。

ベルリンフィル  
弦楽五重奏団と  
ピアノ演奏会

ロシアの新進気鋭のチ  
ェロ奏者タチアナ・ヴァ  
シリエヴァを中心に結成  
されたベルリンフィルハ  
ーモニー五重奏団演奏会  
が10月11日(土)徳島キャン  
パスむらさきホールで開  
催された。  
当五重奏団は、各楽器  
の国際的スターによって  
編成される全く新しいハ  
イクラスな合奏団であ  
る。  
国籍の異なったメンバ  
ーで構成されているのに  
もかわらず、長年にわ  
たり室内楽活動とともに  
することで培ってきた心  
の音色で互いにつかり  
と結びついている。  
絶えず新たな音楽基盤  
作りを求めめる彼らの姿勢  
は、今後さらに偉大なヴ  
ィルトゥオーゾ室内楽団  
としての揺るぎないアイ  
デンティティを確立し  
ようとしている。  
こうしたひとつの合奏  
団がまさに昇り詰め、成  
熟を遂げようとする瞬間  
に立ち会うことができ  
るという事は、学生にと  
って幸せな体験であつた  
といえる。  
日本人ピアノ史の快演  
も光った。

声楽専攻生に指導  
ライフルト  
名誉教授が来学

本学名誉教授ライフルト  
ト氏の声楽公開レッス  
ンが、音楽学部および短大音  
楽科の声楽専攻生を対象に  
10月29日(水)むらさきホール  
で行われた。  
深刻な腰痛を押しに行わ  
れたレッスンでは、呼吸  
法・発声法に始まり、日本  
人が陥りやすいU母音の問  
題(どうしても扁平で浅い  
発声になりやすい)、ドイ  
ツ語のウムラウトの発音や  
自分の声にあわせてどうい



豊富な音楽経験や優秀な  
若い声楽家を多数世に送り  
出している確固たる実績に  
基づいたレッスンは、受講  
生はもちろんのこと、会場  
の聴衆も深い感銘を受けて  
いた。

文部科学省事業採択状況について

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業など

本学は外部資金導入に努めており、特に公的研究費補助金を広範囲な分野で受けている。以下に本学が受ける主な公的研究費補助金事業を紹介する。

1 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

私立大学、大学院等教育研究装置施設整備費補助のうち、平成19年度までの「私立大学学術研究高度化推進事業」(ハイテク・リサーチ・センター、学術フロンティア、社会連携研究)

「私立大学学術研究高度化推進事業」(ハイテク・リサーチ・センター、学術フロンティア、社会連携研究)の内容が見直され変更した「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(平成20年度予算38億5千5百万円)の選定結果が公表され98件が採択された。本学からは3つのプロジェクトが応募し3件(①有機合成と天然物化学的手法による医薬品素材の開発、②自然免疫に基づく新規な感染除菌技術の開発、③アルツハイマー病の初期発症機構の解明と早期診断法の確立)とも選定された。応募した事業は、各大学の経営戦略や研究戦略に基づいて特色を活かした研究を大学が実施し、その基盤形成を支援するものである。

2 戦略的連携支援事業

事業は国公私立の大学間の連携を支援するため文部科学省が今年度始めたものである。地域医療に貢献できる優秀な「医療人」を育てようと、本学香川薬学部・工学部、香川大学医学部の3大学が協力して築く医療教育システム「地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム構想」が同事業に採択された。地域の医療教育の水準を高めるのが狙いで、各大学の学生が他の医

療専門分野を学習し医療人としての幅を広げる。一方「四国の知」の集積を基盤とした、四国の地域づくりを担う人材育成は四国における自立的発展を促す協同的連携づくりに携わる人材を育成する取り組みとして選定された。当学を含む四国県内の7大学が連携し、個々の大学の特色を活かした教育研究を互いに補完し合い社会の要請に応えていくものである。

連携大学は地域ニーズに応じて、この事業で教育された学生が四国で活躍することで四国の自立的発展に貢献するばかりでなく、四国の知力の向上が期待できるであろう。

3 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金

基礎から応用まであらゆる分野の研究を支援する。本学は「香川総合医療教育研究コンソーシアム」を構築し、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な総合医療人を、大学入学時の早い段階から養成することをめざす。この事業の成果として、香川県さらには四国地域に密着した、チーム医療のできる医療環境の強化が、強く期待される。具体的な連携取り組みとしては次の項目を予定している。

本学を代表校として、香川大学、香川県立保健医療大学を連携校として企画した申請が、文部科学省の戦略的連携支援事業に採択され、今年度より平成22年度までの3年間の事業とされる。この事業では、香川県をはじめとした四国地域における社会ニーズに応えるために、医療系学部をもつ香川の3大学が連携し

文部科学省・戦略的連携支援事業

「高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアム構想」

「学部(学士課程)共同授業」この事業では学部教育を「総合医療をマスターするための登竜門」として位置づけている。とくに、学部初年度の早期体験学習として、チーム医療などについて3大学で連携して学ぶようにする。この学習によって、総合医療人としての心構えが育つことになる。高学年の学生に対しては、連携学部の専門授業を受けら

る独自の、先駆的な研究者の自由な発想に基づく研究を支援し、人文・社会科学から自然科学までの全ての研究分野が対象で可能な限り研究費の使途を制限しない柔軟性を確保した補助金である。本年度の採択実績は56件(平成19年度58件・私立大学582校中45位)で例年若手研究者を中心に積極的に応募し常に上位にランクされている。

①都市エリア産学官連携推進事業(文部科学省) ②地域イノベーション創出研究開発事業(経済産業省) ③戦略的創造研究推進事業(科学技術振興機構) ④産学共同イノベーション振興機構(科学技術振興機構) ⑤先端計測分析技術・機器開発事業(科学技術振興機構) ⑥先導的イノベーション推進事業(科学技術振興機構) ⑦その他

中学生・高校生が本学のサイエンスを体験
「ひらめき・ときめき☆サイエンス」

「ひらめき・ときめき☆サイエンス」大学の研究室に行こう!は、小・中・高校生に大学の研究室に来てもらい、大学で行われている高度なサイエンスを直接体験してもらおう、という日本学術振興会が支援する事業である。7月から10月にかけて、薬学部「香りの変化」香りを作り分けよう・調べよう、人間生活学部「科学の目で健康」チェッカー栄養、運動、健康、文学部「お寺の文化財を調査しよう」未来の博物館学芸員をめざして、香川薬学部「よく見てみよう!脳と神経のかたちとたらき」の4つのプログラムが実施された。参加した中学・高校生は、実験や調査を体験しただけでなく、昼休みには教授や大学院生と一緒に食事をして気軽に色々な話をすることができた。薬学部では、最新の機器を使っての香り成分の分析、香りの合成を体験した。人間生活学部では、現在メタボで注目されている内臓脂肪などの計測をした。文学部では、尾道市の西國寺で貴重な資料を調査した。香川薬学部では、脳の試料に触れて神経の不思議を体験した。各プログラムの終了後に「未来博士号」の賞状を一人一人に手渡した。いずれのプログラムも多く参加者を集めることができたので、日本学術振興会のスタッフがわざわざ本学まで見学に来たほどであった。このプロジェクトの確実な実施を、将来を為す人材の確保に努める。

香川総合医療教育研究コンソーシアム
香川大学 医学部 医師
徳島文理大学 香川薬学部 工学部 臨床検査技師
香川県立保健医療大学 臨床検査技師
地域に密着したチーム医療を実現できる「高度な医療人」

今回の事業期間内に、医学・薬学・看護学・臨床検査学・臨床工学を相互に補完し、高度な医療人を養成するという「香川モデル」を確立することができる。将来的には、このモデルを「四国モデル」、「全国モデル」へと拡大することをめざすことで、今後あるべき医療人の姿を、徳島文理大学が先取りして世の中に示す絶好のチャンスととらえている。

秋分の日である9月23日に、香川薬学部と神経科学研究所において高校生のサイエンスキャンプを開催した。本事業は、(独)科学技術振興機構の地域科学技術理解増進活動推進事業によるサポートを受けて実施された。参加者は高校生が6人、付き添いの保護者が1人、高校の生物教員が2人の計9人。内容は、(1)「こころの基礎」..記憶、(2)「こころの傷」..情動、(3)「こころの傷」..病気の3本立てで行った。「こころの基礎」では、学習や記憶の際には脳の中でどのようなことが起こっているのか、また、終了後のアンケートでは、今後このような機会があればぜひ受講させて欲しい、という意見を多くいただいた。香川薬学部や神経科学研究所では、地元の高校生や一般社会人に対して、「開かれた大学」として体験学習や出張講義を行っており、最新の研究成果をわかりやすく紹介している。卒業生や在学生の保護者の方々と、気軽にわれわれの実習や講義をご利用いただきたい。

高校生のサイエンスキャンプ「こころの仕組みに迫る脳研究」

起きているのか、また、「こころの叫び」では、喜怒哀楽が脳のどこから生まれてくるのかを、解説。「こころの傷」では記憶障害や情報障害の脳についてや、普段はなかなか見ることができない脳の中身についても、見ていただいた。3本とも高度な内容を含んでいたが、参加者からはとても積極的に、活発な質問も多く出ていた。また、終了後のアンケートでは、今後このような機会があればぜひ受講させて欲しい、という意見を多くいただいた。香川薬学部や神経科学研究所では、地元の高校生や一般社会人に対して、「開かれた大学」として体験学習や出張講義を行っており、最新の研究成果をわかりやすく紹介している。卒業生や在学生の保護者の方々と、気軽にわれわれの実習や講義をご利用いただきたい。

若者に科学の魅力を伝える
「さいえんす茶房 in 讃岐」が香川キャンパスで始まる
「サイエンス茶房」が香川キャンパスで始まる
「サイエンス茶房」が香川キャンパスで始まる

「サイエンス茶房」が香川キャンパスで始まる
「サイエンス茶房」が香川キャンパスで始まる

### 桐野学長がとくしま経済 飛躍サミット・集中討議に出演

徳島ビジネスチャレンジメッセ2008

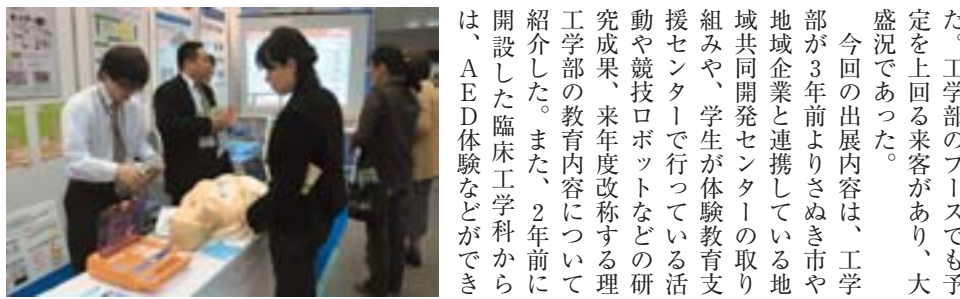


毎年、秋に開催される本県産業界のビッグイベントである「徳島ビジネスチャレンジメッセ2008」が10月16日(木)から18日(土)にかけての3日間、アステイとくしまにて開催された。本学からは工学部が出席し、多くの見学者の注目を集めていた。また、最終日には総合政策学部の学生が社長となった2つのチームが起業体験をし、中高生のチームを交えた多くのライバルと業績を競い合った。

毎年の秋に開催される本県産業界のビッグイベントである「徳島ビジネスチャレンジメッセ2008」が10月16日(木)から18日(土)にかけての3日間、アステイとくしまにて開催された。本学からは工学部が出席し、多くの見学者の注目を集めていた。また、最終日には総合政策学部の学生が社長となった2つのチームが起業体験をし、中高生のチームを交えた多くのライバルと業績を競い合った。

#### 工学部ブースが盛況

アステイとくしままで開催された徳島ビジネスチャレンジメッセ2008に、工学部からも出展した。本学部からは地元企業の出展ばかりでなく、中学生や高校生による起業体験などの催しもあり、来場者は今回、延べ約3万5千人に上った。工学部のブースでも予定を上回る来客があり、大盛況であった。



今回の出展内容は、工学部が3年前よりさぬき市や地域企業と連携している地域共同開発センターの取り組みや、学生が体験教育支援センターで行っている活動や競技ロボットなどの研究成果、来年度改称する理工学部の教育内容について紹介した。また、2年前に開設した臨床工学科から、AED体験などができ

### 地域ICT未来フェスタに メディアデザイン学科などが出展

研究成果や学生プロジェクトを発表、講師としても活躍

11月6日(木)から8日(土)の日程でアステイとくしまで開催された「地域ICT未来フェスタ」に映像コンテンツの制作、ICTカードを用いた医療サポートシステムの構築、アカデミックブースの3分野で出展を行った。このフェスタは、徳島ならではの地域情報化への取り組みや県内それぞれの地域で行われている地域独自のICT活用モデルを全国に発信し、「徳島色」豊かなICTモデルを提案していくことを目的として開催された。

#### 地域映像コンテンツ制作ワークショップで一般対象に指導

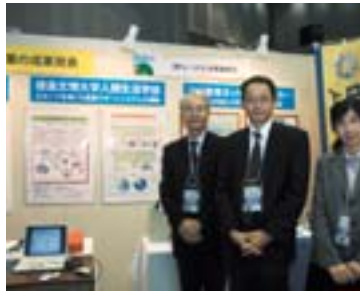
地域ICT未来フェスタのプログラムとして、11月8日(土)に「地域映像コンテンツ制作ワークショップ」が開催された。総務省四国総合通信局と四国コンテンツ連携推進協議会が企画したワークショップで、地域に関する映像の制作に高い関心を持つ一般の方々も参加した。メディアデザイン学科の山城新吾講師が指導にあたり、メディアデザイン



このイベントを通して徳島の皆さんに本学工学部が日頃行っている研究を広く知っていただくとともに、その研究成果が徳島の新しいビジネスと結びつくことを望んでいる。また、参加した学生には地域産業についての見聞を広め、今後の研究のヒントにしてもらいたいと期待している。

#### ICTカードを用いた医療サポートシステム

本年度の「eとくしま推進プラン」(財団法人eとくしま推進財団)協働目標実現に向けた調査・研究に篠原靖典准教授、古本奈奈代教授、清澄良策准教授らの研究グループが応募し、ヒヤリングやプレゼンテーションを実施後、「ICTカードを用いた医療サポート



#### 学生作品やオリジナルグッズを展示

メディアデザイン学科

人間生活学部メディアデザイン学科がアカデミックブースに出展した。メディアデザイン学科では現在、学生が学外の行政機関・企業・団体と連携して作品をつくるプロジェクト活動を授業の一環として実施しており、技術・スキルの向上だけにとどまらず、コミュニケーション能力や、責任感・自信を持ち、社会的に認められる実践的な作品づくりを経験した学生を育成している。

今回のアカデミックブースでは学生が作り上げた作品を展示した。徳島新聞社との連携による「まなぼう」の向上を目的とした、ICTカードシステムの利用に関する調査・研究である。本システムにおいて、住民は各自の健康基礎情報が入ったICTカードを携帯し、測定のデータを、住民に不測の事態が起こった場合や災害時において、医療関係者等がカード情報を利用することにより、迅速かつ的確な救急治療を行うことが可能となる。



### 中小企業の経営理念の実情を学ぶ

「中小企業振興講座」が開講

徳島県では本年3月に中小企業振興条例を制定し、その具体的な施策の一環として産官学連携による「中小企業振興講座」が本学の総合政策学部で平成20年度後期から開講された。地域の中小企業振興を担う若者を育成することを目的としており、講座は本学部の教授や県庁の幹部職員による「理論講座」と県内企業経営者による「実践講座」を柱としており、「とくしま経済飛躍サミット」への参加、企業へのインターンシップ等も組み込まれている。

第1回は講座担当者である中村昌宏総合政策学部長が「中小企業概論」の講義を行ったが、それに先立ち開講セレモニーが行われ、飯泉嘉門県知事と桐野豊学長より挨拶をいただいた。第2回は斎藤秀生県商工労働部長から県の中小企業に



飯泉徳島県知事による開講セレモニー

「プロジェクトから、親子で楽しめる防災ゲームを3点、徳島県立図書館との連携による「学ぼう! 楽しもう!」プロジェクトから、インターネット展示および解説を4点、本学短期大学部飯原教授との連携による「デジタルミュージック」プロジェクトからデジタル紙芝居5点を公開し、来場者の方々に実際に体験していただく。またファミリーマ



喜納講師によるセミナー

### DNAの化学反応が がんや老化のきっかけに 『やさしい科学技術セミナー』開催

高校生や高専生および一般の方を迎え、香川薬学部薬科学科喜納克仁講師による国際科学技術財団助成「やさしい科学技術セミナー」DNA化学反応「がん・老化のきっかけ」セミナーが、9月13日(土)に行われた。このセミナーは、財団の研究助成金獲得者の中から、選ばれた研究者が行うもので、当日の模様は広く報道機関にも紹介された。

セミナーでは、DNAにも化学反応がおこり、がんや老化のきっかけになることが、高校の化学で出てくるキーワードを使いながら説明されたため大変わかりやすいものであった。

※国際科学技術財団は、天皇皇后両陛下御臨席のもと、日本のノーベル賞という位置づけの「国際賞」の授賞式典も挙行している。

講演終了後には、香川薬学部棟の最新実験施設の見学と、実際にたまたねからDNAを取り出す実験を参加者に体験していただいた。

講演だけでなく、動画や実際に体験できる実験など趣向を凝らした内容で行われた今回のセミナーは、参加者からも賛辞の声が聞かれるなど好評であった。

### 徳島県知事に意見ぶつける 「しゃべり場とくしま」 を本学で開催



桐野学長の挨拶に続いて知事から「オンラインワン徳島―第2幕―」についての説明があり、その後知事が「コ・ディネーターを務め、パネリストとして出演した総合政策学部4年の小野慎司さん、音楽学部4年の坂東遥さん、人間生活学部3年の難波聖治さん、短期大学部2年の鎌倉成美さんの4人がそれぞれ意見を述べた。

飯泉徳島県知事と県民が県政の課題について意見を交わす「しゃべり場とくしま」の本年度第1回、年代別会議が10月9日(木)に本学のアカンサスホールで開催され、約350人が参加した。



R大使を務めた坂東さんは若者が芸術に触れる場を増やすため、音楽や文化関係の人材バンクの創設を提案し、知事から「良いアイデアだ」と賞賛された。海外での日本語教師のボランティア経験のある難波さんは「徳島をもっとメジャーに」と国際交流の場の拡充を提言し、鎌倉さんは食の安全を脅かす一連の事件に触れ、安全でおいしい徳島の農水産物を全国に売り込むチャンスだと強調した。

### 企画から商品化まで 学生が手掛ける エコプロジェクト好評



人間生活学部メディアデザイン学科の学生によって開発された「文理大学グッズ」が10月14日(火)より学内ファミリーマートと購買で好評発売中である。

「クリアファイル」は一週間の講義資料が曜日毎に整理できるよう、5つに仕切りが設けられている。学内のゴミ減量化をめざした「まいはし」は組み立て式でコンパクトに収納が可能、「まいまぐ」はプラスチック製で保温効果に優れている。



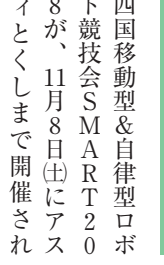
### 回収式エコバッグ本格始動

1カ月で200kgのCO<sub>2</sub>を削減

昨年12月の試行で好評だった回収式エコバッグの本格的な運用が、10月14日(火)から始まっている。今回は、前回のアンケートで要望が多かった小さいサイズのバッグを新たに追加し、使用範囲も学内のファミリーマートと購買に広げた。運用方法は前回と同様で、学内12カ所に設けた回収ボックスに返却されたエコバッグを回収スタッフが夕方回収し、中敷きの交換やバッグの洗濯をした後、購買などに返す仕組みとなっている。

### ロボット競技大会で 3連覇!

「KA☆NI」号(工学部)が優勝



四国移動型&自律型ロボット競技会SMART2008が、11月8日(土)にアステイトくしまで開催された。本競技会は今年で8年目を迎え、本学をはじめ徳島大学、高松高専、阿南高専などが参加した。

工学部からは、工学部機械電子工学科から4チームと、人間生活学部メディアデザイン学科から3チームが参加した。工学部機械電子工学科となるが、同学科で2回目となるが、同学科の「KA☆NI」号が見事に優勝を勝ち取った。工学部としては初の栄誉に輝いたが、昨年度まで人間生活学部が2連覇していたため、本学としては、3連覇を達成したことになる。さらに、工学部機械電子工学科の「キメラッシュ」号が、大会実行委員会から安定した性能を評価され、特別賞を受賞した。

今年の競技ルールは、制御プログラムはもとより、ロボット本体を工夫しないとゴールできないように考えられており、開発は困難を極めた。幾度となく本体を分解・改良・再組み立てし、同じプログラムを修正・改良した結果、何とか完走できるものが出てきた。受賞した3年生4人が一丸となって努力した結果が最高の形で結実し、メンバーたちの喜びもひとしおであった。と同時に、自分たちが考えもしなかった、あるいはあきらめてしまった構造・方式で動作している他大学・高専チームのロボットに、非常に感銘・刺激を受けていた。

### 就職内定を得て

#### 就職活動をするにあたって

薬学部 薬学科 太田 千博



就職活動をするにあたって私が一番頑張ったことは、まずは就職の情報収集です。

また広報公聴課では、「マイシティー徳島」の撮影のため、朝6時から中央卸売市場への取材に同行しました。市役所の職員のみならず、皆さんの構成を考えたり、ディレクターの方たちと話し合ったりして、番組を作っていることを知り驚きました。市役所の仕事は、本当に多様であり、具体的な仕事の内容はまだまだ多いですが、職員のみならず皆さんの働く姿を見たり話を聞くことで、大きな刺激を受けることができました。

今、公務員は市民に叩かれることも多く、大変な仕事だと聞きました。しかし私は、やはり自分の地元をよりよい町にしたいと思っています。公の立場から地元へ貢献したいです。徳島のことを考えている職員の方々と話すことで、自分も公務員になりたいという夢がより確かなものになりました。

今回のインターンシップで学んだことや刺激を忘れず、残りの大学生活を有意義に過ごしていきたいと思えます。

言葉をもらい、「教師は言葉で人を導く」ということの大切さを教えていただきました。そして何より養護教諭をめざす友人たちが近くにいたことが私の心の支えでした。自分自身の努力だけでなく人の温かさや支えてくれる人たちがいたからこそ「養護教諭」という夢を持ち続けることができました。みなさんも自分を信じ前向きに取り組みむことで必ず道は開けると思っています。応援しています。

最後に就職活動は、自分自身でどういった人柄なのかを深く考えることのできるよい機会です。ときには他人に助けを求めるときもあると思いますが、就職は自分のためにするものなので、聞くだけでなく、しっかりと自分で考えてください。終わったときに自分自身の行動に満足できているように頑張ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

### 実務の難しさを体験

総合政策学科3年 吉田優香

私はインターンシップ制度で徳島市役所に行きました。企画調整課では、徳島市の総合計画や行政評価などを学びました。普段大学で学んでいる政策について、実際の現場を通して見ることでできました。また、自分たちが事業計画を立案し、ヒト、お金、場所、成果の大きさ、広報の仕方など、バランスを考えて決定する難しさを知りました。学問としてではなく、実際に

誰にも負けないもの  
工学部 機械電子工学科 安藤 康夫  
ユニ・チャーム株式会社

私は、大学4年・専攻科と2度の教員採用試験を経て、生まれ育った徳島で養護教諭の夢を叶えることができました。どんなに苦しくても2月から採用試験の日まで、一日たりとも勉強は休んだ日はありませんでした。不安の数だけ問題をひたすら解き続けるような心がけました。しかし一般教養などの苦手分野は思うように伸びず、泣きながら机に向かっていました。そんなとき、多くの先生方から励ましの

保健室への道は  
努力と感謝から  
人間生活専攻科 山口 紀子  
徳島県養護教諭

就職活動に迷いは付き物ですが、さまざまな機会を逃しては、自分の希望する企業には就職できないと思えます。試験は数回に分けて行われ、長丁場だったのですが、その中で残っていたけれども、毎日前向きに、真面目に努力したからだと思います。この機会を受けてみることにしました。今思うと、このような機会を無駄にしないことは、とても大切なことだったと思います。

就職活動をするにあたって私が一番頑張ったことは、まずは就職の情報収集です。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

就職活動は情報収集です。会社のことをよく知り、会社には選ばれるばかりではなく、良い会社を選べる内定を勝ち取ってください。

# 助産学実習にも対応した病院実習の中核施設 実習支援センター起工

9月5日(金)、小松島市にある徳島赤十字病院の隣接地において、「徳島文理大学実習支援センター」の起工式を村崎理事長をはじめとする学園関係者および工事関係者20人が参加して挙



行された。実習支援センターは、看護および薬学に関する病院実習を円滑に推進するための中核施設であり、1階は主に薬学関係、2階は看護および学生が宿泊できる設備を有している。その他、徳島赤十字病院との共同研究の推進や、地域との連携活動等の多目的な利用が可能な施設として計画している。

## 医療人としての心構えと病院システムを学ぶ

### 徳島大学病院 実習前見学

臨床工学科

臨床工学科2年生(1期生)が8月1日(金)に徳島大学病院での施設見学を実施した。平成19年4月に1期生が入学してから初めての病院見学である。病院見学の主旨は、医療人になるための心構えと、将来職場となる病院の雰囲気や肌で感じつつ、座学や実習で学んだ医療知識を実際の医療現場で再確認することである。

M Eセンターなど)を中心にして先輩技士の説明を聞きながら見学を行った。見学後、学生の感想には、臨床工学科士へ向かうやる気や意気込みの声が多かったが、同時に「医療の厳しさを感じた」、「実感がわかない」などの声もちらほら聞かれた。現2年生が4年生になると1ヵ月以上の臨床実習が待っている。予定では、主に四国・中国・近畿圏の国立病院での実践的な実習を行うことになる。実習後には国家試験が控えており、学生と教員の双方に緊張感が漂うことになる。今から、さらに気を引き締めて臨んでいく。



は、徳島大学病院の事務部、M E管理センター、各診療科のご好意と本学保健福祉学部伊東学部長をはじめ看護学科教員の協力により実現できた。



## 精神保健福祉 援助実習体験記

人間福祉学科4年 鈴木博子

の生活課題を知る」について報告します。

私は、7月下旬から約4週間、国家資格「精神保健福祉士」取得に必須の「精神保健福祉援助実習」を行いました。実習目標の一つである「患者様とのコミュニケーション」を通して、その

多くの患者様は、日々、病気と障害の苦しみと闘いながらも、家族や地域生活への希望を胸に秘めています。人によってその思いは違います。例えば、入院期間が短い方は「自分で料理を作りたい」、「早く仕事を戻りたい」といふ声や、社会復帰への願いが聞かれます。長らく入院されている方は「ここにずっといたい」、「退院はできないでほしい」、「などと、社会復帰を諦めた声も多く、長期入院・社会的入院の弊害を身をもって感じました。

徳島文理大学連は、100人を超える連員から成り立っています。また、毎週火曜日と木曜日にはみんなで練習に励んでいます。連員の多くは県外出身で、初めて阿波踊りに触れた人もたくさんいます。

## 徳島文理大学連がハーネス連から表敬受け

れ合いました。本番当日、多くの観客の中で踊りを楽しみ、ハーネス連の方も笑顔で一步一歩踊り込んでいきました。その姿を見て、私たちは元気をもらいました。阿波踊りは誰もが参加でき、そこは人も動物も関係なく楽しむことができるのだと感じました。



## ODA(政府開発援助) 民間モニターに参加して

児童学科2年 久保智美

今回、私はODA民間モニターとして、8月17日(日)から22日(金)の1週間アフリカのタンザニアへ行ってきました。

ODA(政府開発援助)は国が行っている私にはとても遠い存在。でも援助だからと良いことを行っていると勝手に思っていた。恥ずかしながら、私にはこの程度の考えしかありませんでした。それから少しずつ知っていくうちに、「国債がたたくさんある中で、どうして他国に援助できるのだろうか」という疑問がでてきました。そしてそれは輸入国である日本の将来のためと知った時、なんだ結局は見返りを求めている活動なんだ、と少し否定的になりました。でも実際は私の考えは違っていることに気づいたのです。

自分の国が良ければ良いのではない。周りの国に目を向け、すべての人で幸せを分け合う。そうすることで、より幸せな環境へと繋がっていく。

とがありがたかったです。私たちが当たり前に送っている日々。それがどれほどありがたいことなのか、自分たちの生活をぜひもう一度見つめ直してください。お願いします。

## 基礎看護学実習Iを終えて

看護学科1年 駒場萌美



基礎看護学実習Iとして、初めての病院実習を7月末に行いました。最初は緊張や不安もありましたが、看護師の方々の優しく丁寧な指導のもと多くのことを学び、とても充実した実習を行うことができました。

今回の実習で学んだことのひとつは、入院患者様の生活環境があります。病室の入り口やベッド周りのカーテン、病室の氏名標示の際には患者様の許可を得るなどプライバシーの保護がされていました。トイレまでの移動が困難な患者様には、ベッドサイドにポータブルトイレが設置される

など、患者様に応じた工夫や配慮を知ることができました。そして、看護師は患者様の服用している薬について医師や薬剤師と話し合うなど、さまざまな専門職の人たちと連携を取り患者様一人ひとりの療養生活を支えていることもわかりました。

また、看護師と患者様のかかわりから、看護師の役割についても学ぶことができました。手術前、多くの不安や緊張を抱えた患者様や家族に対し、その思いにしっかりと耳を傾け不安や緊張を和らげて笑顔へと変えていた看護師を見て、看護師の力の大きさを感じました。

また、看護師と患者様のかかわりから、看護師の役割についても学ぶことができました。手術前、多くの不安や緊張を抱えた患者様や家族に対し、その思いにしっかりと耳を傾け不安や緊張を和らげて笑顔へと変えていた看護師を見て、看護師の力の大きさを感じました。

今回の実習で学んだことのひとつは、入院患者様の生活環境があります。病室の入り口やベッド周りのカーテン、病室の氏名標示の際には患者様の許可を得るなどプライバシーの保護がされていました。トイレまでの移動が困難な患者様には、ベッドサイドにポータブルトイレが設置される

今回の実習で学んだことのひとつは、入院患者様の生活環境があります。病室の入り口やベッド周りのカーテン、病室の氏名標示の際には患者様の許可を得るなどプライバシーの保護がされていました。トイレまでの移動が困難な患者様には、ベッドサイドにポータブルトイレが設置される

今回の実習で学んだことのひとつは、入院患者様の生活環境があります。病室の入り口やベッド周りのカーテン、病室の氏名標示の際には患者様の許可を得るなどプライバシーの保護がされていました。トイレまでの移動が困難な患者様には、ベッドサイドにポータブルトイレが設置される



現地視察に参加した久保さん(前列右から3番目)

**最新!**  
**総合トレーニングマシンを**  
**導入** Cybex社製VR-3フルラインアップ

四国内最大規模  
徳島県・香川県内の大学では初!

11月、徳島・香川両キャンパス体育館内に、最高水準のトレーニングマシンを総合トレーニングマシンを導入した。施設内には、Cybex(サイベックス)社製VR-3マシンのフルラインアップを導入し、四国4県の各種総合運動施設を含め、マシンの導入数としては四国内最大規模であり、徳島県・香川県内の大学では初の設置となった。本学では、約50の部・サークルがあり、毎日のようにテニスコートや体育館、弓道場、グラウンド等、各施設を拠点として、体育・文化系にも多くの学生が練習に励んでいる。このような状況の中で、学生から運動やトレーニングに関わる設備のさらなる充実へ向けた声が高まり、また、生活習慣病やメタボリックシンドローム等、社会的な背景を考慮し、運動習慣の確立、社会へ果立つために必要と基礎体力の充実、さらには体育系部活の競技力向上等を目的とし、トレーニング設備の充実を図ることとなった。

3マシンのフルラインアップは、日本では国立スポーツ科学センター等に設置され、各種スポーツのプロ・トップアスリートからも信頼が厚く、質・効果ともに最高水準のトレーニングが可能でマシンとして定評があり、本学においてもこれらに匹敵する最上級のものを揃えている。

運動の初心者、一般学生からスポーツ競技者、トップアスリートまでそれぞれに対応できるように、また、基本的なフットネス、主として筋力、筋パワーなどの乳酸性能力、および有酸素性能力をトレーニングできるようなバラエティに富んだマシンが導入されている。最新の総合トレーニング機器の導入により、体育科教員



や関連の教職員と連携を図りながら、体育授業における基礎体力向上への取り組みに加え、一般学生や教職員の運動を中心とした健康管理、体育系部活の競技力向上・強化に繋げるための各種のトレーニング指導を充実していきたいと考えている。

全学生が心身ともに充実したキャンパスライフを過ごすために必要不可欠な環境の一つとして、十分に活用して欲しい。

**クラブ・サークル 大会結果**

- 準硬式野球部
  - 全日本9ブロック対抗準硬式野球大会
  - 四国代表選手として選抜
  - 児童学科3年
  - 上田侑太郎
- 女子バスケットボール部
  - 第25回日本女子学生選抜バスケットボール大会
  - 四国選抜チームに選抜
  - 児童学科2年
  - 石川 祐子
- 卓球部
  - 第42回秋季リーグ四国卓球選手権大会
  - 男子団体2部リーグ3位
  - 女子団体2部リーグ2位
- 女子バレーボール部
  - 四国大学バレーボール秋季リーグ戦大会
  - 準優勝
- 男子バレーボール部
  - 同上

**クラブ・サークル紹介**

**学生ボランティア部**  
学生ボランティア部の活動について紹介します。学生ボランティア部の活動は、主に3つに分けられます。1つ目は、知的障害者施設に行き、その方々と触れ合うボランティア。2つ目は、知的障害者の子どもたちと一緒に出来るボランティア。最後は、献血活動のボランティアです。これは、大学内だけでなく徳島駅前での活動もあります。その他、いろいろな団体から要請がくることもあります。

最近行ったボランティアの1つは「中国・四川省大地震」です。これは、大学内から声が上がって学生ボランティア部が一掃に行きました。皆さんの力もあり大変良い成果を上げることができました。そして、「世界人権宣言60周年 ヒューマンフェスタ」としまして「08」のボランティアでは、今年度出場した

**水泳部**  
私たちが水泳部は、現在競泳と水球の2部門で活動しています。部員数は香川キャンパスと徳島キャンパスをあわせても10人となかなか、同好会から昇格をして3年しか経っていないのですが、部員全員がやる気に満ちた活気のあるクラブです。練習は主として週末に徳島の鳴門教育大学のプールで、香川キャンパスと徳島キャンパスの部員が集まって全員で行っています。

今年度出場した

大会では残念ながら競泳部門での成果がみだりでしたが、水球部門でインカレに出場しました。また、今年には11月に静岡県で行われた第84回日本学生選手権水泳競技大会、全国大会にも参加しました。

水球は他の競技と比べ公式戦が少ないのですが、その分高校生やOBの水球チームとの練習試合に力を入れています。



水泳部

**大学祭**

山城祭 10月24日(金)~26日(日)  
杏樹祭 10月17日(金)~19日(日)

設置マシンは、Cybex社製の単関節・複関節トレーニングマシン、およびフリーウェイトトレーニングマシン、有酸素性能力のトレーニングができるトレッドミル、トータルボディ、そしてリカンベントバイク等である。Cybex社製VR

第44回山城祭は、「句々笑っていられる学祭を」をテーマとして開催しました。このテーマの「句」は、誰もが山城祭で一番の輝きを得られるようにしたいという願いから決定しました。

今年の山城祭も例年同様、模擬店や野外ステージ

での催しを行い、ともに盛り上がりを見せ、素晴らしい輝きを放たせました。1・2日目は天候にも恵まれ、予定通りに催しを行うことができました。「風味堂」をゲストに迎えた体育館ライブは、大変な盛り上がりを見せました。3日目は生憎の雨となり、野外ステージでの催しが一部体育館に変更となるハプニングもありましたが、多

くの方のご協力のおかげで無事乗り越えることができました。今回の山城祭開催にあたって、多くの方々からのご支援賜りましたことに、心からの感謝の意を表しますとともに、来年度以降も山城祭のさらなる発展をめざし、努力していきたいと思

準備中はいろいろな壁に当たり、悩んだりもめたりしました。特に企画を考えると、学生・教授や地域の方々の支援のおかげで無事成功させることができました。

私たちは、今年の杏樹祭を今までの以上の盛り上がりにしようというテーマを「JUMP×3」としました。結果を知らし



山城祭



杏樹祭

**30万球のイルミネーションが**  
**キャンパスを幻想的に灯す**  
**イルミネーション点灯式**  
**開催**

恒例となった冬のキャンパスを彩るイルミネーションの点灯式が、徳島キャンパスでは11月20日(木)に、香川キャンパスでは11月28日(金)にそれぞれ開催された。

徳島キャンパス点灯式

では、司会の号令に合わせて参加者全員がカウントダウンを行い、桐野学長、村崎理事長、学生代表の杉原苑子さん(児童学科4年)が点灯のスイッチを押すと、キャンパスは徳島県下最大級の24万球のLEDが輝き、詰めかけた約1000人の近隣住民の方や学生から歓声があがった。

香川キャンパスでは、学生代表の坂元若菜さん(日本文学科1年)の進行によりカウントダウンが行われ、桐野学長、中島副学長、学生代表岡村周作さん(文化

財学科3年)が点灯のスイッチを入れた。

点灯時間は、両キャンパスとも日没21時まで。2009年2月14日(土)まで幻想的な光がキャンパスを灯す。



ミュージカル ~動物村の宝物~

**おとぎのくに**  
11月20日(木)・21日(金)

「おとぎのくに」は、保育科1年生が授業「児童文化」の一環として、附属幼稚園や近隣の保育所の園児を招待してミュージカルやブラックシアターなどを上演する行事である。第25回にあたる今年には11月20日(木)と21日(金)の2日間にわたり、700人以上の子どもたちを招待して開催された。

オープニングは「ブームワッカー」というプラスチックの棒状の楽器によるパレードである。子どもたちは珍しい楽器に興味津々の様子であった。続いてのポディパーカ

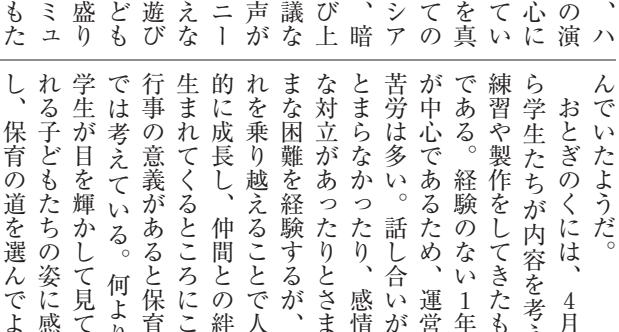
ブラックシアター ~しまうまのしゃっくり~

ミュージカル ~動物村の宝物~

おとぎのくにには、4月から学生たちが内容を考え、練習や製作をしてきたものである。経験のない1年生が中心であるため、運営の苦労は多い。話し合いがまとまらなかつたり、感情的な対立があったりとさまざまな困難を経験するが、それを乗り越えることで人間的に成長し、仲間との絆が生まれてくる。この行事の意義があると保育科では考えている。何より、学生が目を輝かせて見られる子どもたちの姿に感謝し、保育の道を選んでよかったという思いが強くなったことが大きな収穫である。



ブラックシアター ~しまうまのしゃっくり~



ミュージカル ~動物村の宝物~